



「人と自然にやさしく、品格のあるまち太田」 を目指して

私たちのまち「太田市」は、平成17年3月28日の1市3町による合併から、今年で13年目を迎えます。その間、新市として初めての総合計画となる「新生太田総合計画」に掲げた将来都市像「人と自然にやさしい、笑顔で暮らせるまち太田」を目指し、北関東随一の工業都市として、着実に発展を遂げてまいりました。

しかし、「新生太田総合計画」策定から10年が経過した現在、各自治体を取り巻く環境は大きく変動しています。経済活動のグローバル化や地球環境問題の深刻化など地域を超えた課題をはじめ、人口減少・超高齢化社会の到来といった社会構造的な課題、度重なる自然災害や高度経済成長期に整備したインフラの老朽化対策など、様々な課題に的確に対応し、将来にわたって都市の活力を維持していかなければなりません。

「第2次太田市総合計画」では、このような時代にあっても、本市のこれまでの取り組みの成果を活かし、諸課題に対応したまちづくりを進めていくため、「人と自然にやさしく、品格のあるまち太田」の実現に取り組むこととしています。

今後は、限られた経営資源を最大限に有効活用するとともに、市民の皆様との連携と協働により、本計画を着実に推進し、次世代に誇れる太田市となるよう各種事業に取り組んでまいります。

最後になりましたが、本計画の策定にあたって、たくさんのご意見、ご提言をいただきました市民の皆様、熱心にご審議いただきました総合計画審議会委員の皆様、心から感謝申し上げます。

平成29年3月 太田市長

清水聖義

● 市章

かつて、この地域を治めていた新田氏の旗印である大中黒をベースに、右下に市名をひらがなで配置。大中黒に脈々と受け継がれる伝統と革新の精神を表現しています。



(平成17年6月28日制定)

マスコットキャラクター

● おおたん

太田市のアルファベット表記の頭文字「O」を基調にし、頭部の4つの丸は合併した4市町を表し、体の色(緑)は自然に恵まれた市をイメージしています。



(平成17年10月1日制定)

● 市のシンボル木・木・花 (平成17年10月1日制定)



シンボル木=マツ



市の木=モクセイ



市の木=カエデ



市の木=イチヨウ



市の花=キク



市の花=サルビア



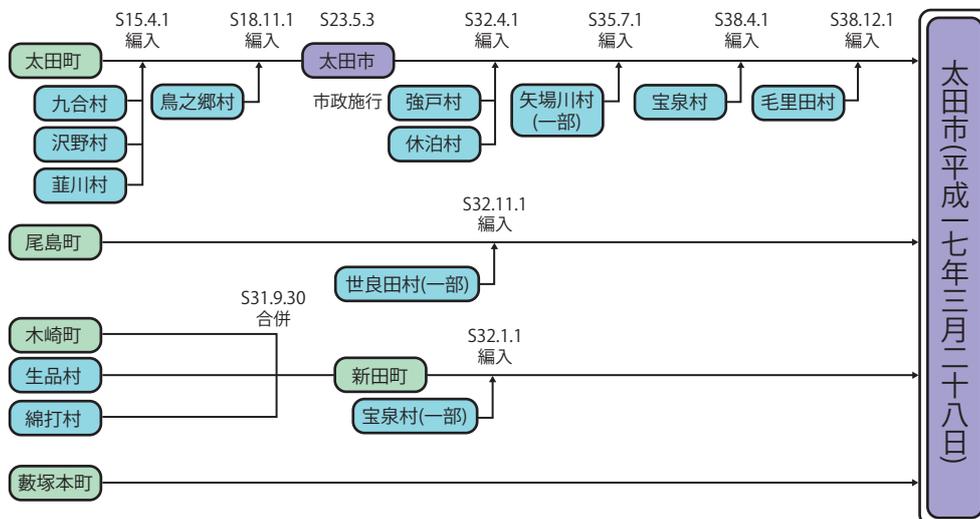
市の花=シュンラン



市の花=ツツジ

● 太田市のあゆみ

明治22年以降の市町村合併の経緯



目次

■ 序論

1	計画策定の趣旨	8
2	計画の構成と計画期間	9
3	市の概況と時代の潮流	10
4	市民の意識	18
5	計画策定の視点	22

■ 基本構想

1	基本構想の目的	26
2	将来都市像	26
3	まちづくりの基本理念	28
4	基本目標	30
5	人口の将来展望	36
6	土地利用の考え方	38

■ 行動計画

1	行動計画の目的	44
2	重点戦略	44
3	財政計画	46
4	分野別施策	47

● 基本理念Ⅰ 教育文化の向上

教育が充実し青少年が健やかに育つまちづくり

1	義務教育の推進	52
2	高校教育の充実	54
3	青少年の健全育成	56

生涯にわたってスポーツに親しみ楽しめるまちづくり

4	スポーツの振興	58
---	---------	----

豊かな心と文化を育むまちづくり

- 5 生涯学習の推進 60
- 6 芸術文化の推進 62
- 7 文化財の保護活用 64

基本理念Ⅱ 福祉健康の増進

みんなで支える福祉のまちづくり

- 8 介護・高齢者福祉の推進 66
- 9 障がい者福祉の推進 68
- 10 地域福祉の推進 70

安心して子育てができるまちづくり

- 11 子ども・子育て支援の充実 72

健康で元気に暮らせるまちづくり

- 12 健康の増進 74
- 13 医療・保険制度の充実 76

基本理念Ⅲ 生活環境の整備

災害に強いまちづくり

- 14 防災対策の推進 78
- 15 消防・救急体制の充実強化 80
- 16 安全な居住環境の推進 82

日常生活の安全を向上させるまちづくり

- 17 防犯体制の強化 84
- 18 消費生活の安定 86
- 19 交通安全対策の推進 88

良好な環境を保全し向上させるまちづくり

- 20 環境政策の推進 90
- 21 生活環境の保全 92
- 22 廃棄物の適正処理 94

基本理念Ⅳ 産業経済の振興

活力ある産業とにぎわいのあるまちづくり

- 23 工業基盤の整備と産業支援 96
- 24 商業基盤の整備とにぎわいの創出 98
- 25 農業生産基盤の整備と農業経営基盤の強化 100
- 26 観光事業の推進と交流人口の増加 102

基本理念Ⅴ 都市基盤の整備

安全で便利な道路や交通機関のあるまちづくり

- 27 道路網の整備……………104
- 28 交通体系の整備……………106

良好な都市空間と住空間を創出するまちづくり

- 29 土地利用計画の策定・推進……………108
- 30 景観の保全……………110
- 31 公園・緑地の整備……………112
- 32 市街地の整備……………114
- 33 住環境の整備……………116
- 34 雨水排水路・下水道の整備……………118

基本理念Ⅵ 健全な行政運営の推進

市民が主体のまちづくり

- 35 地区住民活動の推進……………120
- 36 広報広聴体制の充実……………122

市民が個性と能力を発揮できるまちづくり

- 37 国内外交流の推進……………124
- 38 互いを認め合い人権を尊重する社会の実現……………126

効率的で健全な行財政運営を目指すまちづくり

- 39 効率的で健全な行政経営の推進……………128

■ 附属資料

1	策定体制……………	132
2	策定経過……………	133
3	太田市総合計画審議会……………	138
4	第2次太田市総合計画特別委員会……………	146
5	分野別個別計画……………	148
6	目標指標一覧……………	150
7	太田市まちづくり基本条例……………	155
8	太田市市民憲章・太田市の歌……………	159

序論

- 1 計画策定の趣旨
- 2 計画の構成と計画期間
- 3 市の概況と時代の潮流
- 4 市民の意識
- 5 計画策定の視点

1 計画策定の趣旨

本市では、まちづくりの基本方向を示す計画として総合計画を策定し、計画的にまちづくりを進めてきました。

現行の「新生太田総合計画」は、平成 17 年 3 月 28 日をもって太田市、尾島町、新田町及び藪塚本町が合併して新太田市が設置されたことに伴い、太田市における総合的かつ計画的な行政運営を図るために策定されました。平成 19 年度を初年度とし、平成 28 年度を目標年度として「人と自然にやさしい、笑顔で暮らせるまち太田」を将来の都市像に掲げ、その実現に向けてまちづくりを進めていますが、計画策定から 9 年が経過し、少子高齢化や人口減少のさらなる進行、経済成長の鈍化、市民参加型社会への移行など、本市を取り巻く状況も大きく変化しています。

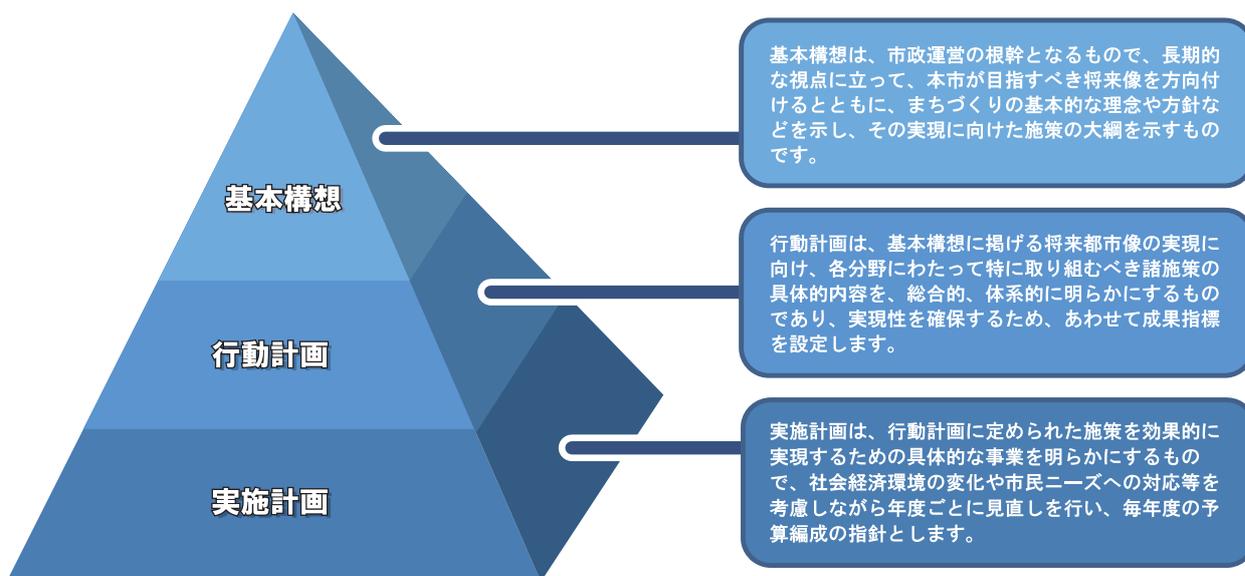
この総合計画は、こうした課題に的確に対応し、これからの時代にふさわしい魅力あるまちづくりを進めていくため、新生太田総合計画での取り組みの成果をふまえ、市民と行政のまちづくりの新たな指針として策定するものです。



2 計画の構成と計画期間

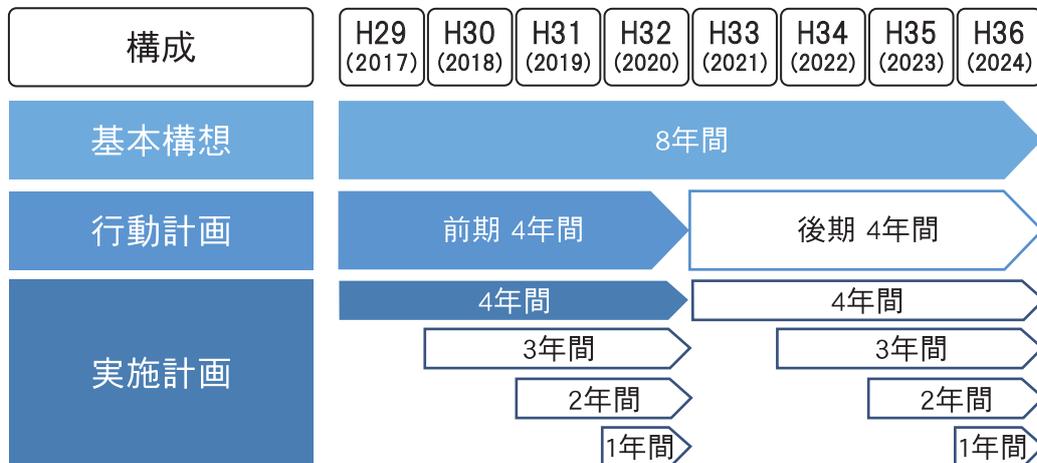
本計画は、「基本構想」と「行動計画」で構成します。さらに、総合計画に掲げる目標に向けた施策を具体的に推進するための「実施計画」をあわせて策定します。

●構成



●期間

- 基本構想：平成29年度から平成36年度までの8年間
- 行動計画：前期 平成29年度から平成32年度までの4年間
後期 平成33年度から平成36年度までの4年間
- 実施計画：4か年を単位期間とし毎年度見直し



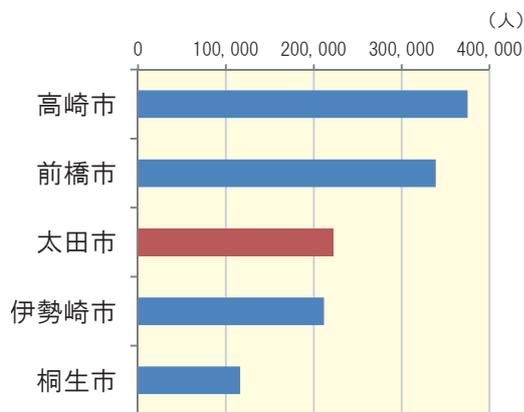
3 市の概況と時代の潮流

本市は、関東平野の北部、群馬県南東部に位置し（東経 139 度、北緯 36 度）、北は桐生市・みどり市に隣接しており、南は埼玉県深谷市・熊谷市、東は邑楽町・大泉町・栃木県足利市、西は伊勢崎市に面しています。また、東京から北西へ約 86 km の距離にあり、北関東自動車道が北部地域を通過して関越自動車道、東北自動車道と接続し、東武鉄道によって東京と接続しています。南部に利根川、北部には渡良瀬川が流れており、標高 239m の金山と八王子丘陵が北西部を走るほかは、概ね平坦な地形となっています。



市の西部を中心に肥沃な土地が広がっており、古くから農業を中心に栄えてきましたが、人口の増加等に伴い、住宅や商工業などの都市的な色彩を強め、現在では北関東有数の内陸型工業地帯として発展を遂げています。

市町村別人口



資料：平成27年国勢調査

本市の人口は、群馬県内では高崎市、前橋市に次ぐ県内第3位の人口規模となっています。東毛地域の中心的な都市として発展を続けていますが、こうした中であっても、本市を取り巻く社会・経済環境は、時代の流れとともに大きく変化しています。こうした変化は、まちづくりに様々な課題を提起し、行財政運営の各分野に大きな影響を及ぼすことから、ここでは、本市の概況と時代の潮流を整理します。

■人口を取り巻く状況

太田市の課題

- 0～64歳の人口が、平成22年(2010年)以降減少傾向にある
- 65歳以上の人口は、平成52年(2040年)まで増加傾向にある
- 出生数が減少し、平成24年(2012年)から自然減となっている
- 若年人口の減少がさらなる人口減少を招く

課題1 人口減少

課題2 出生数の低下

課題3 高齢化の進行

目標

- 人口構成の変化に対応できる社会づくり
- 安心して子どもを産み育てられる環境づくり
- 高齢者がいつまでも健康で活躍できるまちづくり

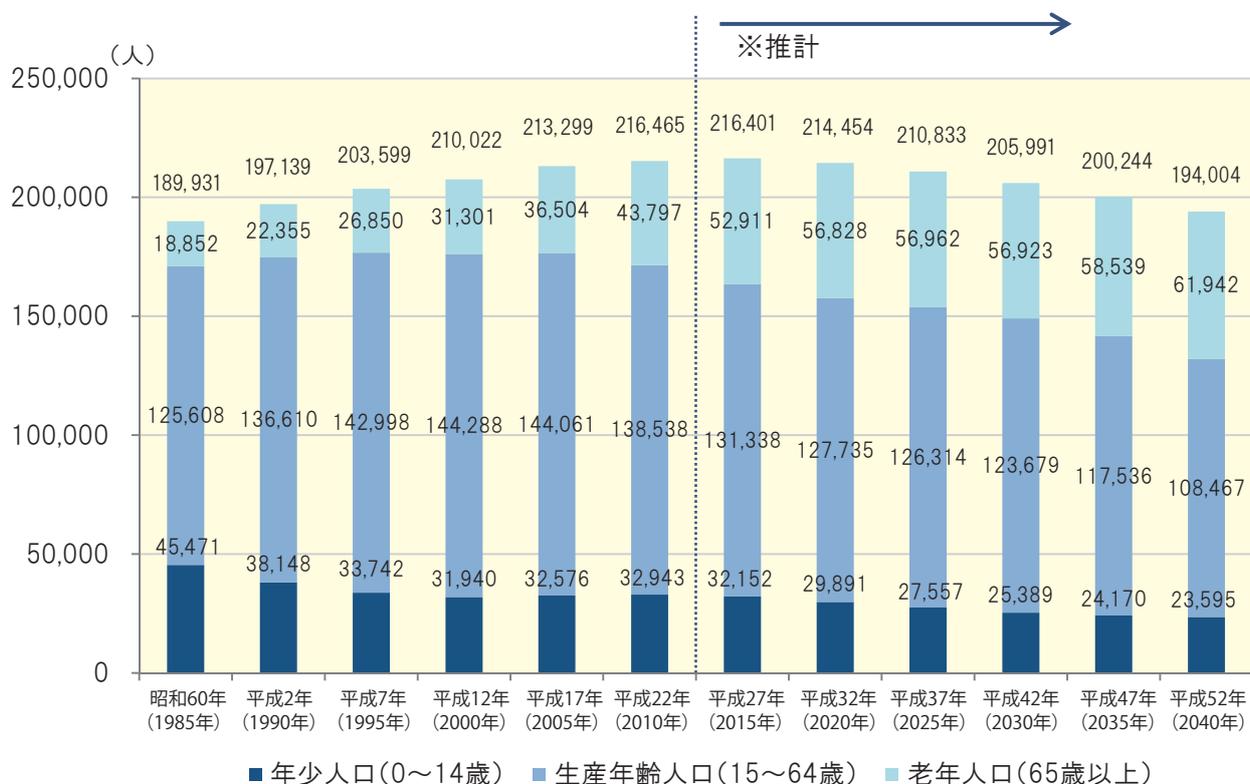
課題1

人口減少

本市の平成28年（2016年）3月末現在の住民基本台帳人口は223,030人となっており、現行の総合計画がスタートした平成19年（2007年）4月1日現在の人口218,185人と比較すると4,845人（2.2%）の増加となっています。

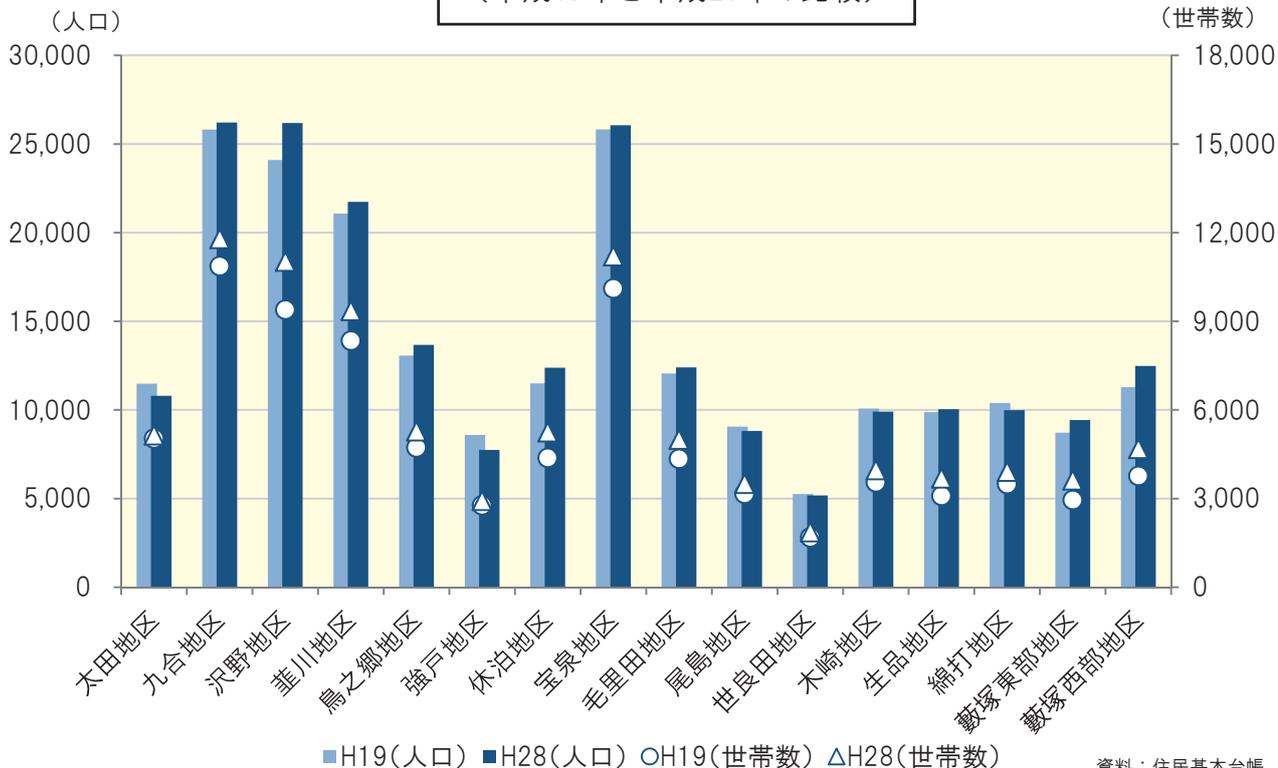
全国的に人口減少となる中であっても、本市の総人口は、これまで右肩上がりに増加を続けてきました。しかしながら、年齢3区分別に見てみると、年少人口（0～14歳）は昭和60年（1985年）以降減少しており、子育て支援の強化などで平成12年（2000年）を底に微増に転じましたが、昭和60年（1985年）時点の年少人口数には至っていません。また、生産年齢人口（15～64歳）は平成7年（1995年）以降横ばいでしたが、平成20年（2008年）のリーマンショックの影響による転出超過の影響もあり、平成22年（2010年）には減少に転じ、今後も少子化の影響から減少し続けることが予想されます。老年人口については増加傾向となりますが、こうした年齢構成などからみると本市においても、今後、人口減少が進むことが予想されています。

本市の人口の推移と見通し

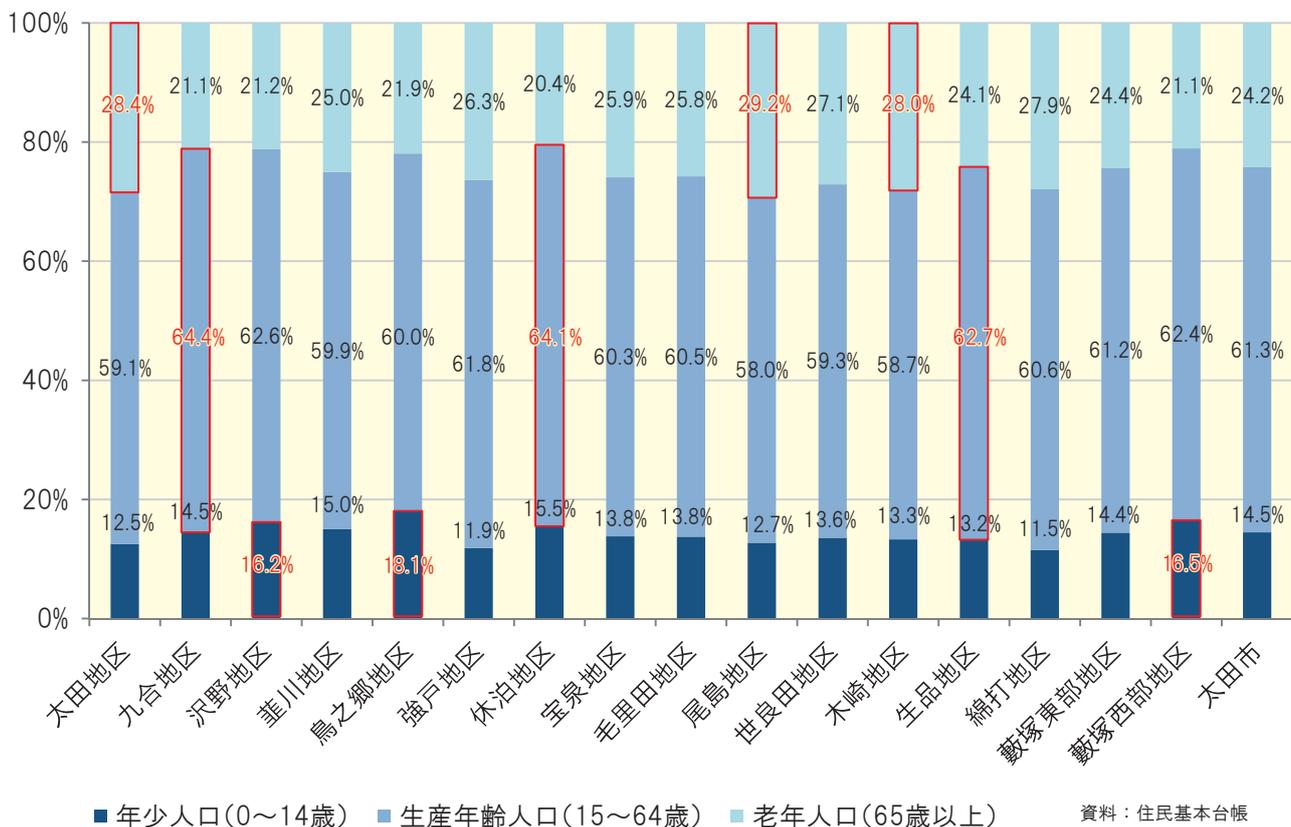


※2010年までは、総務省「国勢調査」から作成。2015年からは、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計を基に作成。

地区別人口及び世帯数の増減
(平成19年と平成28年の比較)



地区別の年齢構成
(平成28年)



課題2

出生数の低下

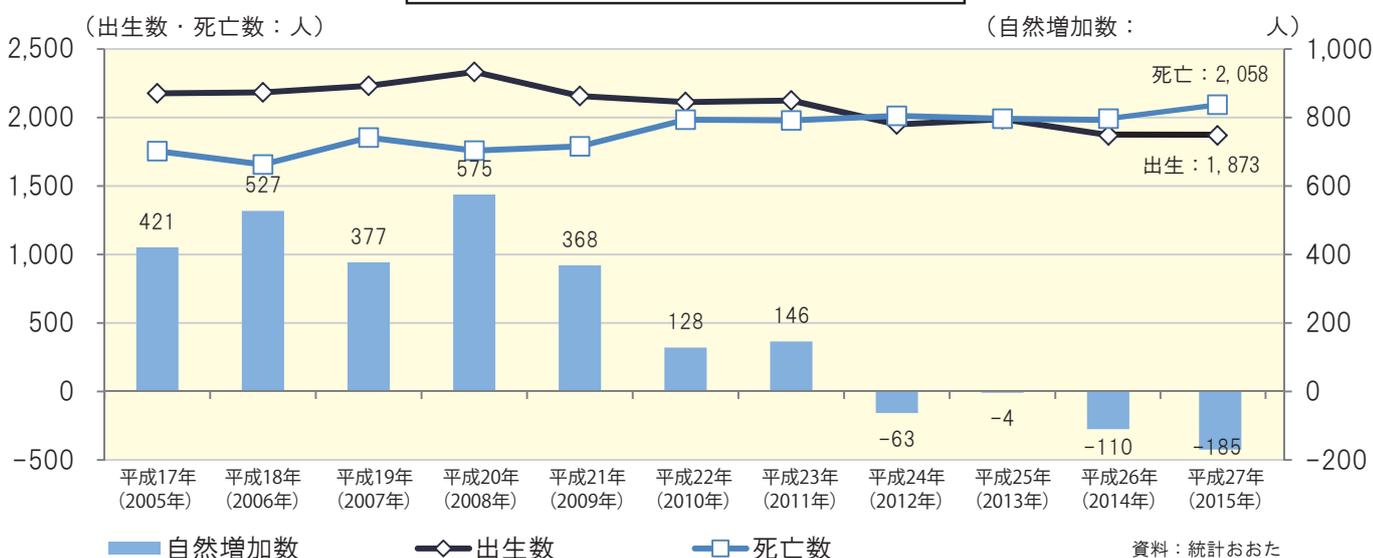
本市の出生数は、平成24年（2012年）から2,000人を割り込み、減少傾向にあります。全国的な問題である出生数減少の要因としては、母親世代の人口が減少しているという人口構造上の問題に加え、未婚率の上昇や晩婚化等が考えられます。

本市における将来の経済活動や社会的機能の担い手を一定の規模で保持していくためには、人口構造の若返りが必要であり、そのためには生まれてくる子どもの数を増やしていくことが必要です。そのためにも、妊娠・出産・育児の切れ目ない支援や、子どもの成長や子育てをまち全体で支え、安心して子どもを育てられる環境づくりを総合的かつ計画的に進めていかなければなりません。

本市の出生数と合計特殊出生率の推移



本市の自然動態（出生・死亡）の内訳



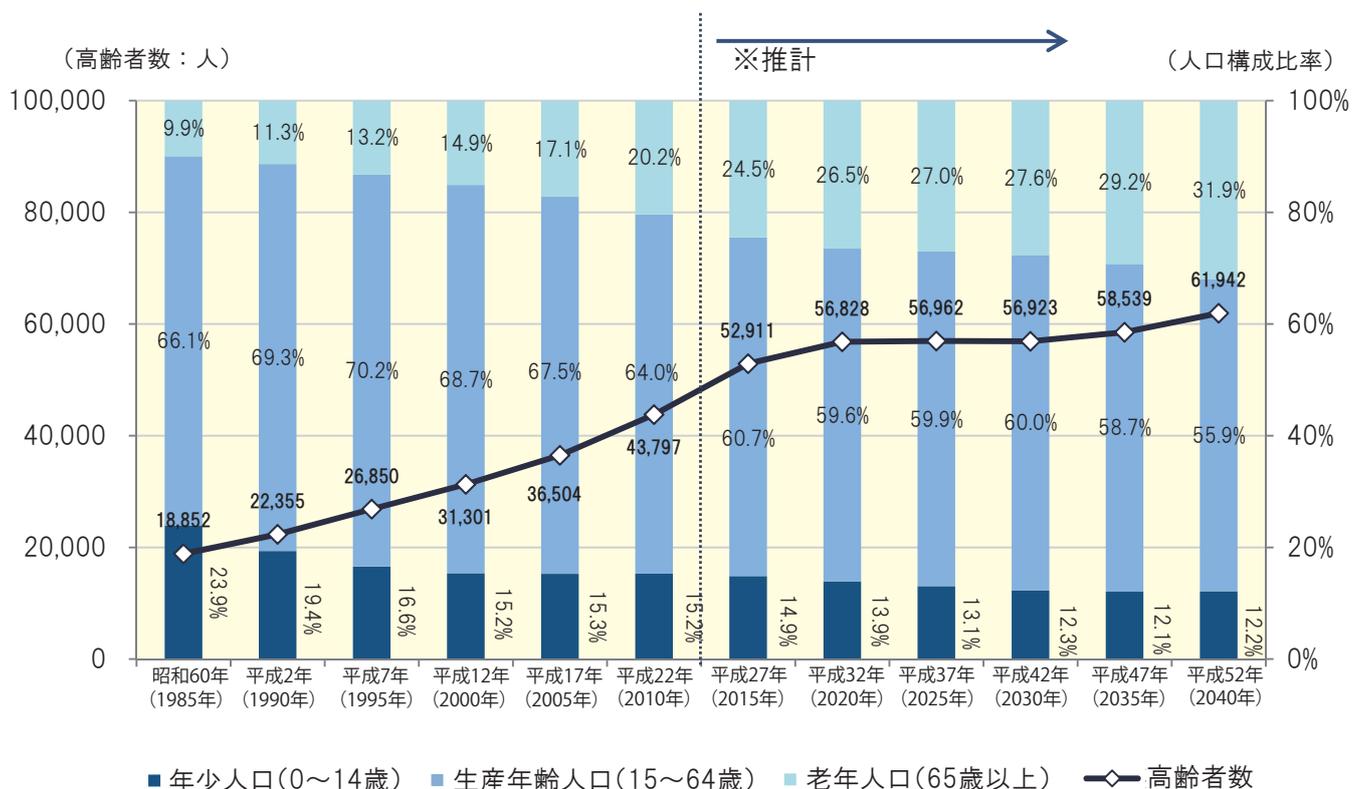
課題3

高齢化の進行

本市の老年人口（65歳以上）は、増加が続いています。これは、平均寿命の延伸や第2次ベビーブーム世代が老年人口世代に加わることで主な要因となりますが、総人口に占める老年人口（高齢化率）は、平成52年（2040年）には31.9%に達し、その後も上昇していくと推計されます。

高齢化によって、地域活動を支える人材の不足や単身の高齢世帯数の増加、介護や入院が必要となる高齢者が増加することが予想されます。これらの課題に対応するためには、高齢者がいつまでも健康で活躍でき、生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めることが重要です。

本市の高齢者数の推移と見通し



※2010年までは、総務省「国勢調査」から作成。2015年からは、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計を基に作成。

■ 産業・経済を取り巻く状況

太田市の課題

- 生産年齢人口の減少により労働力が不足していく
- 人口減少や人口構成の変化により、市場規模が縮小していく
- 主要産業のピラミッド型構造によるリスクが潜在する
- 空き店舗の増加により、まちなかのにぎわいが失われつつある

目 標

- 市外に対して稼げる産業を支援するとともに、地域に根差したローカル経済圏の活力向上を図り、市内の「働く場」を確保していく
- 元気な高齢者や女性など多様な人材が活躍できる社会づくり

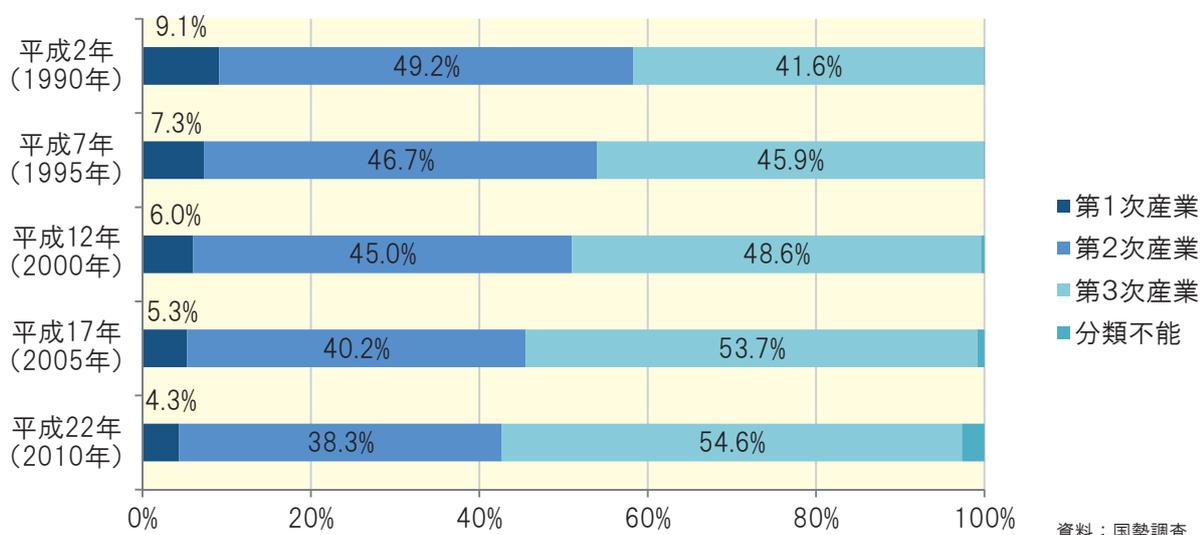
平成 22 年（2010 年）の国勢調査における本市の産業別就業者数の割合は、第 1 次産業の従事者数が 4.3%、第 2 次産業の従事者数が 38.3%、第 3 次産業の従事者数が 54.6%となっており、第 3 次産業の構成率が年々増加しています。

第 2 次産業の中では、特に製造業に従事している人数が多く、比率では全体の 33%、男性の約 44%を占めています。本市は全国でも有数の工業都市として、市内をはじめ周辺地域の経済や雇用を支えています。グローバル競争が厳しさを増していく中、主要産業のピラミッド型構造は、振れ幅の大きい需要変動に直面した場合などに、これに連動した大きなリスクをはらみ、市に与える影響が大きくなるなどの課題もあります。

また、本市は、2015 年世界農林業センサスによると県内で 2 番目の経営耕地面積を有しています。地域で採れた新鮮な農産物を地域で消費出来る環境にあるといえますが、一方で生産年齢人口の減少などを背景とした後継者不足や高齢農業者の引退等により、耕作放棄地が増えるなど課題が表面化しつつあります。

年間商品販売額についても高い数値を示し、バランスのとれた産業形態となっていますが、総人口の減少や人口構成の変化によって、地域内の消費の減少や地域経済への悪影響が懸念されます。経済の低迷は、まちの活力低下や雇用環境の悪化を招くことに繋がります。本市が持続的に発展するためには、地域経済をけん引する産業や雇用を生み出す産業（グローバル産業）を支えるとともに、地域の経済循環を促進する産業（ローカル産業）についても活性化を図っていくことが重要となります。

本市の産業 3 分類別従業者率の推移



4 市民の意識

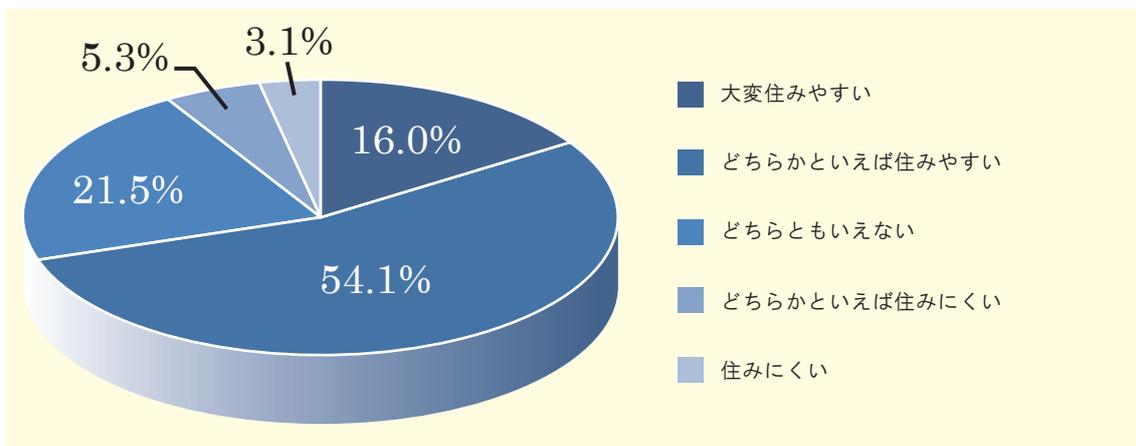
■ 平成 27 年度市民意識アンケート

本市在住の18歳以上の市民から3,000人（無作為抽出）を対象に、本市の住みやすさや市が目指すべきまちづくりの方向性などに関するアンケート調査を実施しました。

（附属資料 P. 134より抜粋）

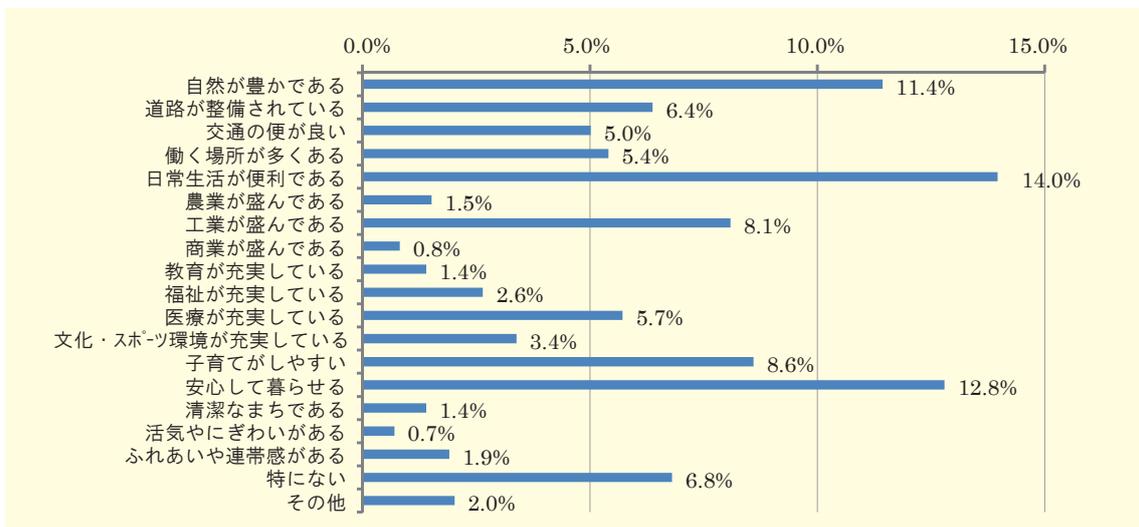
1 住みやすさについて

「大変住みやすい」が16.0%、「どちらかといえば住みやすい」が54.1%、あわせて約70%が住みやすいまちと回答しています。



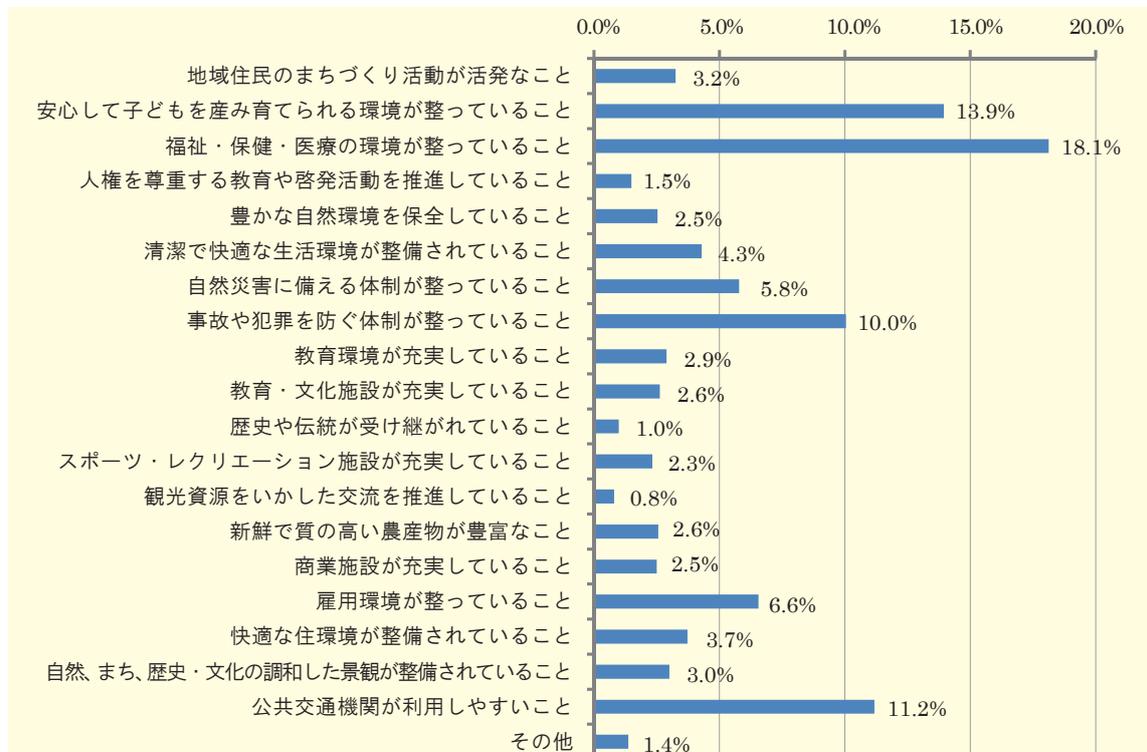
2 太田市の魅力について

魅力を感じる点については、「日常生活が便利である」、「安心して暮らせる」、「自然が豊かである」、「子育てがしやすい」、「工業が盛んである」といった項目が挙げられています。



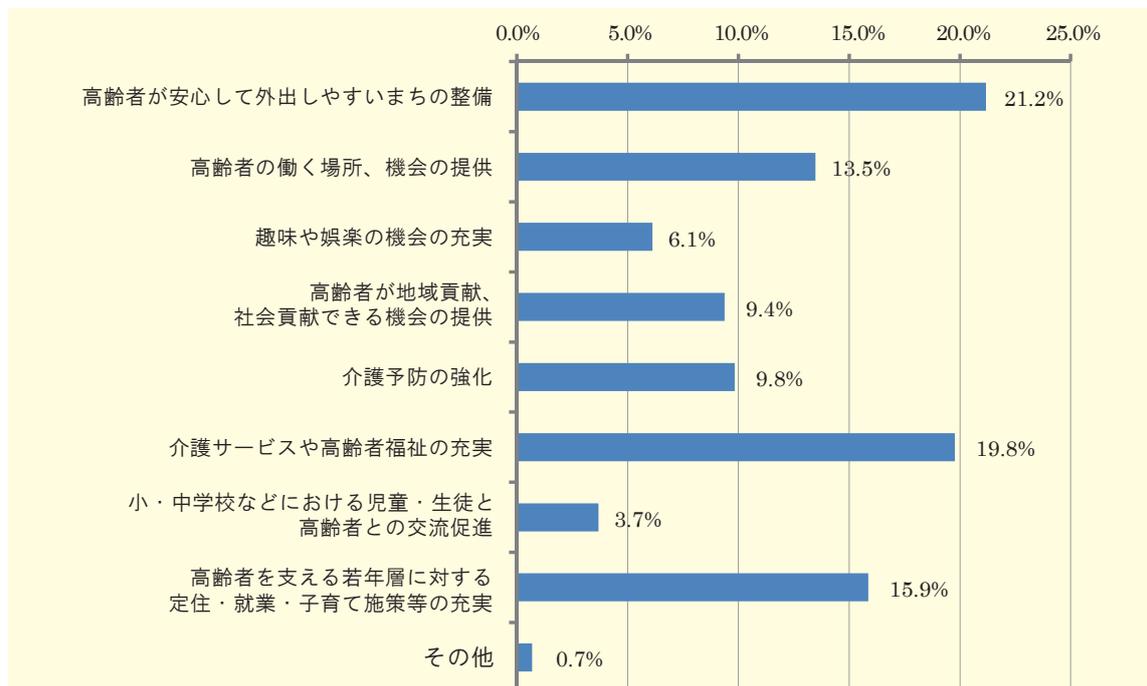
3 太田市が目指すべきまちづくりの方向性について

これから目指すべきまちづくりに重要と考える点については、「福祉・保健・医療の環境が整っていること」、「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」、「公共交通機関が利用しやすいこと」、「事故や犯罪を防ぐ体制が整っていること」、「雇用環境が整っていること」といった項目が挙げられています。



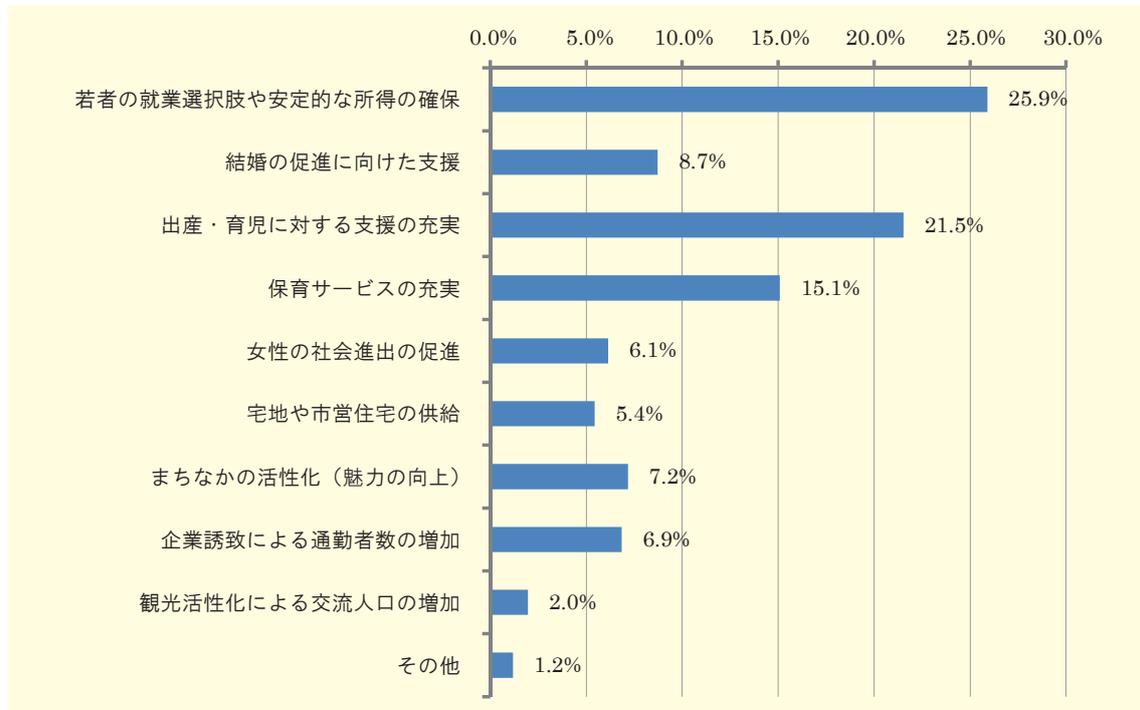
4 高齢化社会に対し市がやるべきことについて

本格的な高齢社会の到来に向けて、市が優先して行うべきことについては、「高齢者が安心して外出しやすいまちの整備」、「介護サービスや高齢者福祉の充実」、「高齢者を支える若年層に対する定住・就業・子育て施策等の充実」、「高齢者の働く場所・機会の提供」、「介護予防の強化」といった項目が挙げられています。



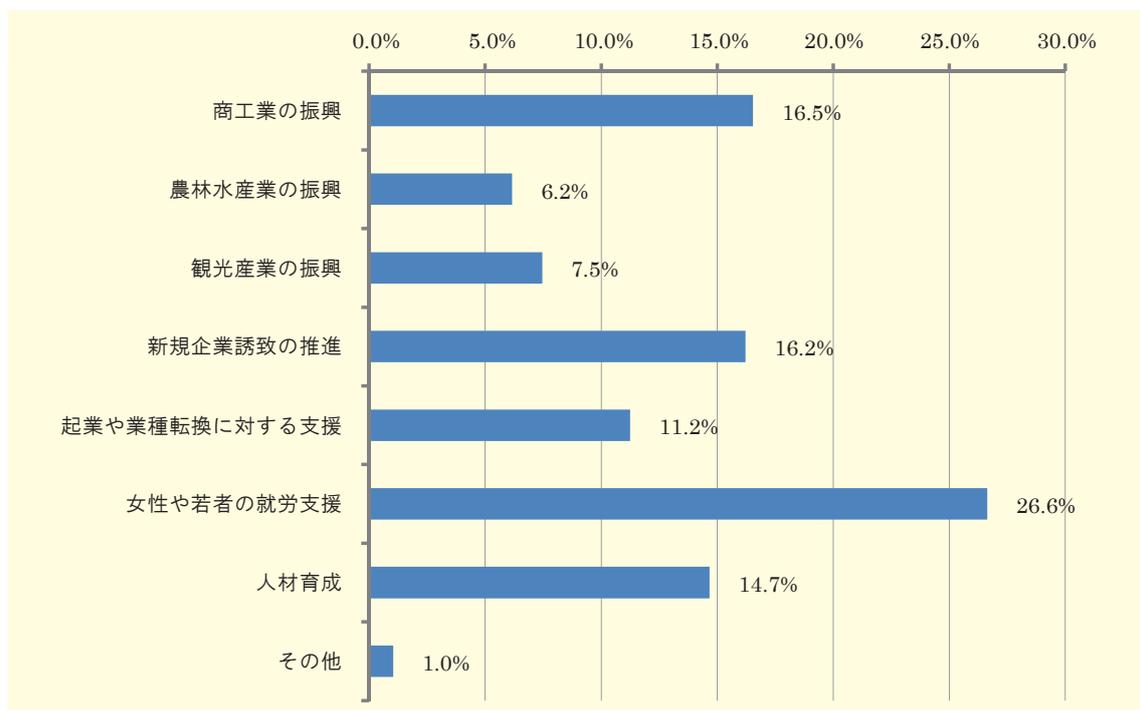
5 少子化・人口減少に対し市がやるべきことについて

少子化・人口減少に対して、市が優先して行うべきことについては、「若者の就業選択肢や安定的な所得の確保」、「出産・育児に対する支援の充実」、「保育サービスの充実」、「結婚の促進に向けた支援」、「まちなかの活性化」といった項目が挙げられています。



6 まちの活力維持を目指した「働く場の確保」のために市がやるべきことについて

「働く場の確保」に向けて、市が優先して行うべきことについては、「女性や若者の就労支援」、「商工業の振興」、「新規企業誘致の推進」、「人材育成」、「起業や業種転換に対する支援」といった項目が挙げられています。



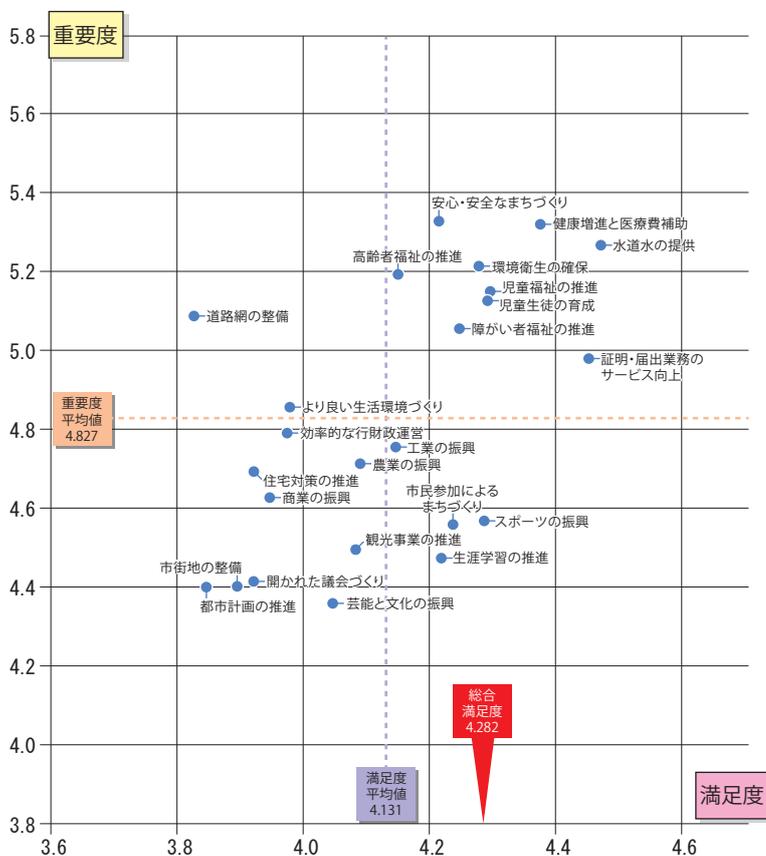
■市民満足度アンケート

客観的に現状の行政サービスについて市民がどう感じているかを捉えることで、今後の行政サービス改善の基礎資料とするため、本市在住の20歳以上の市民から3,000人（無作為抽出）を対象に、太田市の取り組みに対する満足度と重要度に関するアンケートを毎年度実施しています。

平成28年度調査における各施策項目における満足度は、「水道水の提供」がもっとも高く、次いで「証明・届出業務のサービス向上」、「健康増進と医療費補助」、「児童福祉の推進」、「児童生徒の育成」と続いています。一方、満足度の低い分野では、「道路網の整備」については、慢性的な交通渋滞や道路の補修状況への不満が数多く挙げられています。また、「市街地の整備」と「都市計画の推進」については、太田駅周辺、特に南口の景観への不満や駅周辺の治安に対しての不安意見が多くみられます。

重要度では「安心・安全なまちづくり」がもっとも高く、次いで「健康増進と医療費補助」、「水道水の提供」、「環境衛生の確保」、「高齢者福祉の推進」と続いています。市民の生命・財産に直接かかる項目が上位となる一方、「市街地の整備」、「都市計画の推進」、「芸術と文化の振興」といった項目が下位となっています。「市街地の整備」、「都市計画の推進」については、「自分に関わりがない」という意見が散見され、「芸術と文化の振興」については、新市民会館や太田市美術館・図書館の建設といった事業が現在進行中のため、ある程度の充足感があることの表れではないかと考えられます。

満足度・重要度の散布図(全項目)



資料：平成28年度 市民満足度アンケート

5 計画策定の視点

計画策定にあたっては、以下の点に留意することとします。

① 人にやさしい計画

わが国が直面する少子高齢化や人口減少問題は、本市においても同様であり、戦後一貫して増加してきた人口もピークを迎え、これからは人口減少時代になると予測されます。人口減少は、生産年齢人口の減少や経済規模の縮小をもたらすことから、重要かつ緊急の取組課題となっています。

少子化対策を総合的に実施し、安心して出産や子育てができる環境づくりを推進するとともに、人口が減少しても快適で安全な生活を維持することを目指し、高齢者や障がい者が生きがいをもち、全ての市民が安心して暮らせるまちづくりを推進する計画とします。

② 環境にやさしい計画

本市は北関東随一の工業都市であるとともに、農業産出額でも県内トップクラスを誇っています。また、自然的環境として金山や八王子丘陵、渡良瀬川や利根川など市内には豊かな山や川があり、市民アンケートでも「自然が豊かである」ことが市の魅力の一つとして挙がっています。工業都市というイメージが強い本市であるからこそ、産業の発展と自然環境の保全の調和をさらに推し進めていくことが求められています。

豊かな自然を次の世代に引き継ぎ、環境にやさしいまちをつくるために、山林や農地の保全、水源かん養に取り組むとともに、資源循環型社会の形成を推進する計画とします。

③ 安全・安心の確保

本市は穏やかな気候に恵まれ、これまで大規模な自然災害を免れてきました。しかし、地球温暖化などの影響とされる集中豪雨や大規模な地震災害など全国各地で自然災害が相次いでいることから、市民の防災や減災の関心は高まっています。また、市民アンケートでは、まちの治安に不安を抱く市民も多く、暮らしの安心感を高めていく取り組みが求められています。

地域社会の中で、誰もが快適で安全・安心に暮らすことができる社会づくりを推進する計画とします。

④ 市民参画と協働

まちづくりの主役は市民であることから、市民の参画と協働によるまちづくりを進めます。

安全・安心に暮らせる、個性的で魅力のあるまちをつくるため、市民と行政をはじめ、多様なまちづくりの担い手がまちづくりの目標を共有し、それぞれの役割を果たし、実践することができる計画とします。

⑤ わかりやすい計画

総合計画は市民の意見を反映したものであるとともに、市民の目線でわかりやすく実効性のある計画でなければなりません。

市民にわかりやすいまちづくりを進めるため、将来都市像や基本目標を明確に示し、その目標をどれだけ達成したかを客観的に計る指標を設定し、計画の進捗状況や取組の成果を把握することで、市民サービスの向上などが見えやすい計画とします。

